

平成 29 年 3 月 31 日
総合政策局交通計画課

第 12 回 大都市交通センサス調査結果の公表について ～ 三大都市圏の鉄道、バスの利用実態に関する調査結果 ～

国土交通省は、首都圏、中京圏、近畿圏の三大都市圏における鉄道、バスの利用実態を把握し、公共交通施策の検討に資する基礎資料の提供を目的として、大都市交通センサス調査を昭和 35 年以来 5 年ごとに実施しております。

今般、平成 27 年に実施した調査結果を取りまとめましたので公表します。

なお、平成 29 年度においては、国勢調査データ等を用いて、さらに詳細な分析を行うこととしております。

1. 三大都市圏における鉄道輸送の動向

(1) 総輸送人員

総輸送人員は、平成 22 年から平成 27 年にかけて、首都圏、中京圏、近畿圏の全ての圏域で増加している。

【首都圏：40.8 百万人 (H22) →44.1 百万人 (H27) [+8%]、中京圏：3.1 百万人 (H22) →3.2 百万人 (H27) [+3%]、近畿圏：12.6 百万人 (H22) →13.4 百万人 (H27) [+6%]】

(2) 通勤・通学時間

定期券利用者の通勤時間（平均）は、首都圏が 67.7 分、中京圏が 61.1 分、近畿圏が 62.2 分であり、首都圏が最も長い。また、近年の推移では、概ね横ばいの傾向にある。

定期券利用者の通学時間（平均）は、首都圏が 78.1 分、中京圏が 79.5 分、近畿圏が 79.3 分であり、通勤時間より長い。また、近年の推移では、増加の傾向にある。

(3) 自宅から駅までの交通手段

全ての圏域で徒歩の割合が最も高い。また、近年の推移では、徒歩の割合が高まる傾向にある。中京圏では、他の圏域に比べて車の利用割合が高い。

2. 三大都市圏における鉄道駅の乗換えの動向

鉄道駅の乗換え移動時間に占める待ち時間の割合は、全ての圏域で約 6% となっている。待ち時間の内訳は、首都圏と近畿圏はホーム上、中京圏では昇りエスカレータの割合が最も大きい。

<乗換え移動時間に占める待ち時間の割合>

首都圏：5.8%（うち、4.0%がホーム上）、中京圏：5.8%（うち、3.0%が昇りエスカレータ）、近畿圏：6.0%（うち、2.2%がホーム上）

3. 空港アクセスバスの動向

空港までのアクセス手段について、バスと鉄道の利用率をみると、羽田空港、成田空港及び関西空港ではバスの利用割合が 3 割程度、中部空港では 1 割程度となっている。一方、大阪空港ではバスの利用割合が 5 割強となっており、鉄道の利用率より高くなっている。